

福井市との包括連携事業

もりた夢駅2016～夏物語

～福井大“遊房”と初のコラボ～

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

コミュニティデザインの授業の一環として、2008年から「もりた夢駅」に参画してきました。この取り組みは、森田駅を中心に歩いて暮らせるまちづくりを進めるために、住民の皆さんにとって駅を身近な存在に感じていただくための取り組みのひとつで、森田地区文化委員会が主催し、生活デザイン専攻生が企画、実行に参画しました。

今年の特記事項は、2回生の環境デザインのゼミ生4人が、福井大の学生グループ「遊房」とコラボして企画の検討、実施のための準備を行ったことです。延べ6回にわたる会議を重ね、アイデア出しから絞り込み、絞り込み企画の掘り下げ、文化委員会での説明、検討、決定と一連の流れに参画しました。当初は初対面でなかなか意見を言うこともできなかったのですが、打ち合わせ会場を交互にお互いの大学で行うことにより、徐々に打ち解けてきて、活発な意見交換ができるようになりました。一連の企画、準備作業のうち、本学はPRビラのデザインと子ども向けのブース出店を担当しました。地元文化委員会は森田駅周辺でのクイズラリーや飲み物コーナーなどを担っていただきました。

今回のメイン企画である「トレインアドベンチャー」は、バスや電車に乗ったことがない子どもたちが多くの中で、自力で公共交通機関を利用できる



担当したチラシ



トレインアドベンチャー

ようになってもらおう、という企画です。保護者は同伴せず、自分たちの力で森田駅から福井駅にいき、駅周辺でのクイズラリーを楽しみ、戻ってくることを通じて時刻表の読み方、電車利用の仕方、福井駅周辺での楽しみ方などを学ぶプログラムです。

ブース企画は、1回生が「地域環境論」の授業の一環として5つのグループに分かれ、子ども達に鉄道や森田に関する企画を検討しました。その結果、「オリジナルうちわを作ろう」、「夢でつながりタウン」をはじめ、5つの企画に取り組みました。

今回は子どもが約100人、大人も含めて約150人以上の参加をいただき、見に来られた福井駅駅長さんが急ぎよ戻ってJRグッズを用意するなど、子どもたちにとっても関係者にとっても一定の評価をいただきました。



暑かったけど、楽しかったね！



オリジナルうちわを作ろう！